

3

子育て世代が防災に意識を向けるためには？

子育て世代は防災に関心は持っていても、地域の防災訓練の存在を知らなかったり、参加することに躊躇する人もいます。親子で参加できたり、子どもが喜ぶ内容などの工夫で、地域の防災活動を身近に感じてもらうことができます。町内会や地域防災拠点の活動と、地域の子育て支援の活動をコラボさせて、子育て世代が防災に意識を向けるヒントを考えてみました。

ヒント 1

普段の活動に防災の『ミニ講座』を取り入れる

子育てサロンで防災のミニ講座などを行うと、交流も持て、防災を学ぶ機会にもなります。防災の知識だけでなく、地域の防災のしくみや住民同士の助け合いについて伝えることで自分の住む町への意識が高まります。行政等へ無料で講師を依頼することができます。

『ミニ講座』のテーマ例

テーマ	災害対策の基本	テーマ	赤ちゃん
内容	自助：災害への備え（震災／大雨・台風） 共助：地域における助け合いの仕組み	内容	身近な物でベビー用品の代用／ さらしでおんぶ体験／簡易おむつ
講座の相談	区役所総務課 ☎ 800-2309	講座の相談	区役所こども家庭支援課等 ☎ 800-2465
テーマ	地域防災拠点	テーマ	ペット
内容	地域防災拠点の役割 (情報発信・避難所・備蓄品や救援物資の配布等)	内容	災害時のペット対策
講座の相談	区役所総務課 ☎ 800-2309	講座の相談	区役所生活衛生課 ☎ 800-2451
テーマ	救急	テーマ	災害用伝言ダイヤル(171)体験
内容	AED講習会と応急処置／ 火災の逃げ方	内容	災害発生に備えて利用方法を事前に覚える目的として体験利用できる伝言ダイヤル体験 毎月1日、15日 防災週間(8月30日～9月5日) 防災とボランティア週間(1月15日～21日)
講座の相談	消防署予防課 ☎ 801-0119(代)		
テーマ	体験談		
内容	被災経験者の体験談		
講座の相談	被災経験者		

ヒント 2

防災意識を高めるしかけ

地域の親子は避難所や防災備蓄品の現状を知らないの
で、防災の自助の必要性に気づきにくい様です。現状を知ることが一番の防災意識の向上につながります。そこで散歩をかねて『避難所まで行ってみよう』や『備蓄庫の中身を知ろう』などのイベント企画を考えてみませんか。



地域防災拠点のみなさんへ

「訓練に若い人が参加してくれない」という悩みを抱えていませんか？地域の子育てサロンや地域ケアプラザとのコラボでひと工夫！若い世代に向けた訓練内容にしてみてもいかがでしょうか。コラボしたいサロンなどの情報はこども家庭支援課または、各地域防災拠点運営委員会に参加している参与(区職員)に相談してください。



『パパ・ママ支援に困ったら。支援者がハッと気づけるヒント集 令和版』
発行(問い合わせ先) _____
泉区福祉保健センター こども家庭支援課
☎ 045-800-2465

実践例 1

防災に取り組んでいる人の話を聞く

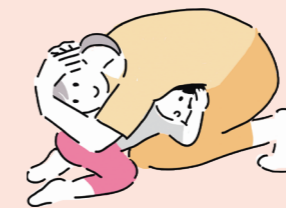
子育てサロンで年に数回、火災や救急、災害の備えなど防災の話聞く機会を設けています。地域の避難場所を知る機会になり、参加者や支援者自身も防災意識が維持できます。顔がみえる関係づくりが、災害時の助け合いにつながることも伝えています。

実践例 2

親子でダンゴムシポーズ

普段から練習しておくことで、いざというときにあわてずに身を守ることが出来ると思います、会の終わりの時に皆でダンゴムシのポーズ*をとっています。スキンシップもとれ、防災意識も高められるので一石二鳥です。

※ダンゴムシのポーズ
地震のゆれを感じた時に頭を守るものがない場合にとるポーズ



実践例 3

防災備蓄品点検の見学会

地域防災拠点運営委員が防災備蓄品の点検をする際、子育て世代をまねいて点検の見学会を行いました。自宅で準備するものがわかり、自助の力が必要なことを子育て世代にも理解してもらいました。